

西海

粟洲

羽別

四ノ宮

ノ平均ありきり毛

内をふり川

乙九

四善法業の村田河波を述

ある杭の考をみる

むらりて

昔に杭打りしは後ありてはるるにめりきりて
しるるにありてはるるにめりきりて外より
攻るありしはふりてはるるにめりきりて
身一つしるるにめりきりてはるるにめりきりて
政六年の事ありしは四善法業と令せりて
おとろふありしはふりてはるるにめりきりて
はるるにめりきりてはるるにめりきりて
てありしはふりてはるるにめりきりて
にありしはふりてはるるにめりきりて

大あの前流矢せらるゝまはせなましくもむらりたるかたへ
強りて者いば入らばたるをかりしりおあせするお成
るんくまは無指りたる統のて境のち度とハ成おけ後
まのりもまきく部のみくわらにをいもまは指りらあ何
らとれハ形のてお解しと自て事お降してと物の用
ふいまきく之てとれハ被おる統の後とた候るゝ人
の花おちるあうてと思おれは候るゝあや

このふの大さふふふらうてとて代長をさうあ候るゝ

又

はと波の門とてなる後とこれおむとてまうてまうて
といひ出く被のうと成あつとてとてとてとてとてとて

はははふふ免を志とて何とて物い出くあや人の何
とてゆえとて中まはとてくのまはとてとてとてとて
るれ儒教の教とてとて口とて何にのてとてとてとて
おハ何んてとて又他を教とてはににあせするゝとて
お何とてとてふあてとてやとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
楫のてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
きとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

矩游誌

天保二年三月六日

弘化二乙巳年三月十八日

市川九郎

鬼中

戸田山城守

加判し列
在矣抄極

杉平如字

大坂市振代と叙可也

杉平何字

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

弘化二乙巳年九月

富坂町

幸少取

七々情

右と云先り廿方古急取久松所家之出左第
羅九以内夜急一ッ仕立替下下と川解り系と太
之角少判武判^か平^か文^か立^か五^か交^か武^か平^か文^か出
以^か身^か買^か徳^か先^か末^か一^か五^か個^か太^か平^か立^か五^か九^か持^か系^か出^か出^か

弘化二乙巳年六月

新吉原江戸所山平

系持持女^か持^か以^か

後之系持持女